

燈光



「灯台絵画コンテスト 2024」入賞作品

● 国土交通大臣賞

(表紙)「美保関灯台」

石橋 里咲子 さん

和歌山県御坊市立湯川小学校 5年

評：圧倒的な光と影の力強さが感じられます、潮の香りまで漂ってくるようです。

● 海上保安庁長官賞



「世界の灯台～夜の灯り～」

鈴木 結仁 さん

福島県いわき市立豊間小学校 3年

評：地球を中心に世界の灯台を描くという発想が斬新だと驚きました。灯台が図案化されていてかわいらしく感じました。

● 燈光会会長賞



「未来を照らす灯台」

佐々木 恋春 さん

鹿児島県始良市立重富中学校 1年

評：灯台と背景の描写力によって港の香と風を感じます。

● 金賞（小学生低学年の部）

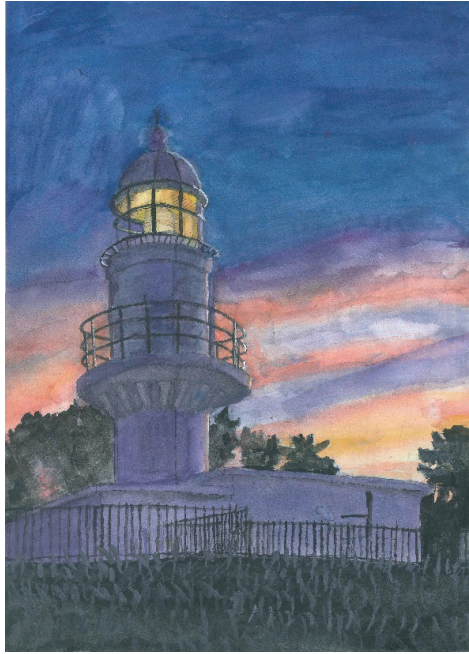


「こんな灯台 あるといいな」

堀田 回 さん

福島県郡山市立朝日が丘小学校 2年

●金賞（小学生高学年の部）



「夕日のカッタシ岬灯台」

佐々木 新之助 さん

和歌山県日高川町立中津小学校 6年

●金賞（中学生の部）



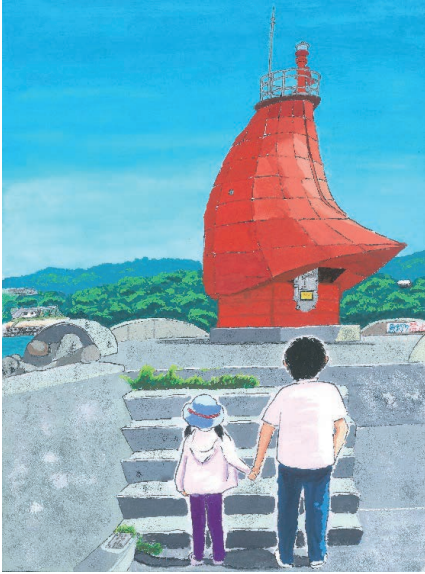
「曇り空の下で」

佐野 聖 さん

大分県大分市立上野ヶ丘中学校 2年

小学生低学年の部

●銀賞



「わあ!おしゃれ!お父さんと見たデザイン灯台」
田中 萌々果 さん
大阪府堺市立家原寺小学校 3年

●銀賞



「野間とう台」
新海 華椰 さん
愛知県半田市立乙川小学校 2年

●銅賞



「夏の犬吠埼灯台」
五十嵐 奨 さん
千葉県銚子市立双葉小学校 2年

小学生低学年の部

●銅賞



「虫とり灯台 楽しいな」

宮田 愛花 さん

東京都町田市立町田第四小学校 2年

●銅賞



「暗い海の希望の灯」

北川 莉帆 さん

静岡県沼津市立千本小学校 2年

●銅賞



「心がほっとする とうだいのこうえん 野間とうだい」

森田 麻琴 さん

愛知県半田市立花園小学校 2年

●銅賞



「夏の大王埼灯台」

濱口 京志 さん

三重県志摩市立大王小学校 2年

小学生高学年の部

●銀賞



「灯台の投光部」

中江 翔大 さん

和歌山県御坊市立塩屋小学校 4年

●銅賞

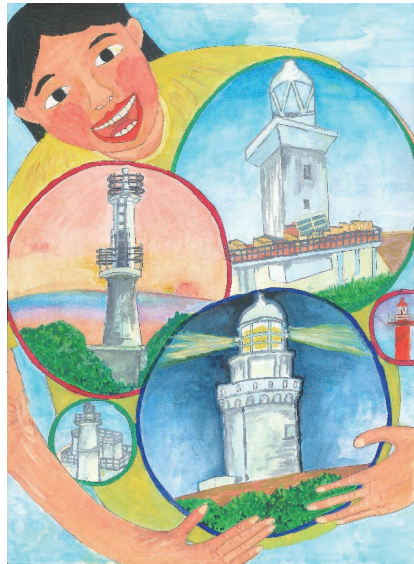


「御前埼灯台まつり」

清水 よう さん

静岡県御前崎市立御前崎小学校 6年

●銀賞



「わたしの大好きな灯台

～海を守ってくれてありがとう～」

中野 心百合 さん

鹿児島県鹿児島市立伊敷小学校 6年

小学生高学年の部

●銅賞



「早朝の灯台（御前埼灯台）」

山下 華子 さん

静岡県静岡市立田町小学校 6年

●銅賞

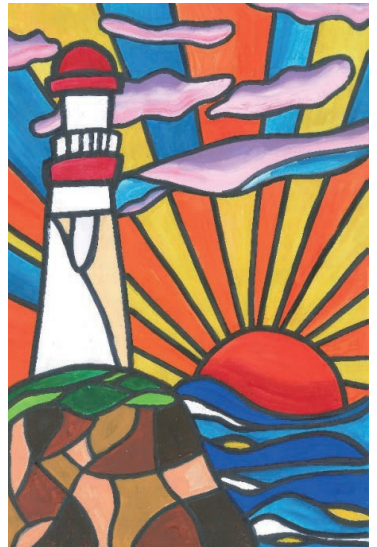


「青と白～犬吠埼灯台」

大木 奏介 さん

千葉県銚子市立双葉小学校 6年

●銅賞



「犬吠埼灯台と太陽」

三浦 渚 さん

千葉県銚子市立双葉小学校 4年

●銅賞



「犬ぼう埼灯台の日の出」

永井 秀弥 さん

千葉県流山市立おおたかの森小学校 6年

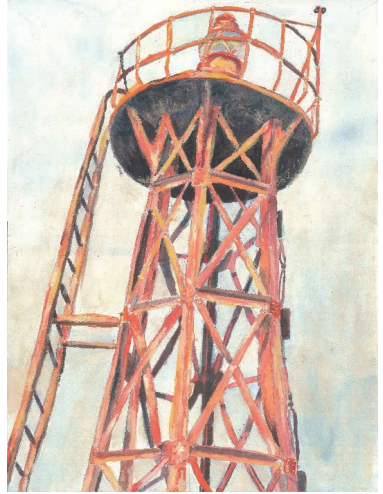
中学生の部

●銅賞



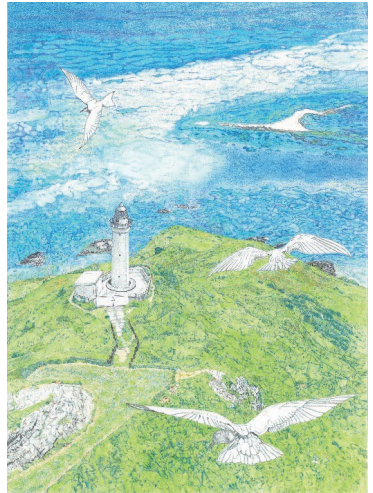
「出雲日御碕灯台と夕焼け」
大串 雪花 さん
北海道教育大学附属旭川中学校 3年

●銀賞



「鹿児島旧港北防波堤灯台」
横山 凜 さん
鹿児島県始良市立重富中学校 2年

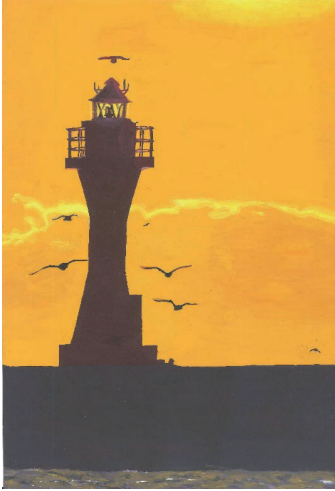
●銀賞



「鳥になって」
長島 翔悟 さん
沖縄県那覇市立那波中学校 3年

中学生の部

●銅賞



「灯台と夕陽」

石岡 愛琉 さん

北海道釧路市立鳥取西中学校 3年

●銅賞



「ビー玉に映る塩屋埼灯台」

志賀 仁美 さん

福島県いわき市立泉中学校 2年

●銅賞



「春の岩崎ノ鼻灯台」

蓮野 愛真 さん

富山県富山市立大泉中学校 1年

●銅賞



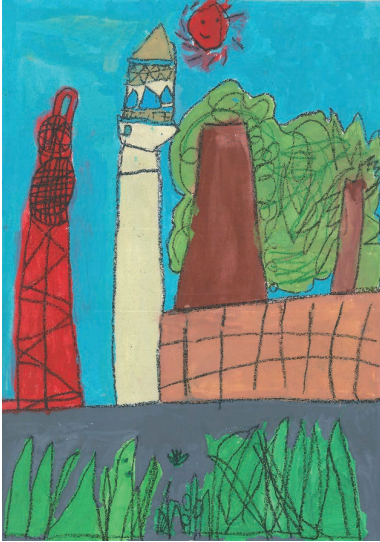
「青空と御前埼灯台」

川上 花 さん

鹿児島県始良市立帖佐中学校 1年

● 特別賞の部 (犬吠埼灯台150周年記念)

● 特別賞の部



「犬吠埼灯台探索」
多部田 一翔 さん
千葉県銚子市立双葉小学校 1年

● 特別賞の部



「犬吠埼灯台と海」
友野 太陽 さん
茨城県銚田市立大洋中学校 2年

● 特別賞の部



「犬吠埼灯台」
山本 菜々子 さん
福岡県福岡市立原小学校 6年

● 特別賞の部 (御前埼灯台150周年記念)

● 特別賞の部



「御前埼灯台の夕陽」

岸本 菜々子 さん

福岡県春日市立春日北小学校 2年

● 特別賞の部

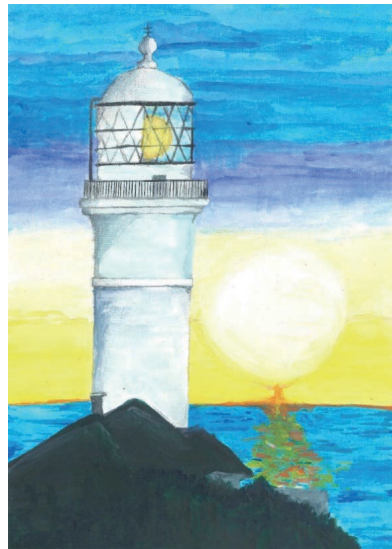


「御前埼灯台のあかり」

河原崎 希 さん

静岡県御前崎市立浜岡中学校 1年

● 特別賞の部



「御前埼灯台のきれいな夕陽」

田村 心晴 さん

香川県綾川町立陶小学校 5年

伊勢湾海上交通センターの一般公開

伊勢湾海上交通センター

7月14日(日)、伊良湖岬の道の駅「クリスタルポルト」をメイン会場に(一社)渥美半島観光ビューロー(旧・田原市観光協会)が主催する伊良湖みなとフェスタ2024の開催にあわせ伊勢湾海上交通センター

の一般公開を行いました。

このフェスタは、コロナ禍明けの昨年から開催され、今年で2回目になります。昨年は当センターも20周年だったので、第1回目のフェスタの開催に合わせ入念



写真1 メイン会場全景
道の駅「クリスタルポルト」



写真2 メイン会場ステージ前
道の駅「クリスタルポルト」



写真3 神島
湿度が高く傘を被っていました

な準備を行いました。これに比べ今年には21周年なので、多少動き出しが遅く準備不足の感が有りましたが、昨年準備した貯金を取り崩しつつ、追い込みでは若手が奮闘し、おもてなしの心で、クイズ&シールラリーの作成、配布用飲料水の準備等、一般公開を盛り上げるため準備を進めました。

途中、不測の事態も多々有りましたが、無事に当日を迎えることが出来ました。

当日は、雨予報のところ職員の頑張りのお陰で天気は薄曇り湿度が高く暑い一日でしたが、予定通り道の駅における誘導担当、センター玄関前のウエルカムコーナー及びクイズ&シールラリー担当、2階会議室の灯器展示・ビデオ放映担当、3階管制室見学・制服試着担当に分かれて見学者に楽しんで頂きました。以降、担当毎に状況をお知らせします。

○道の駅（誘導担当）

道の駅においては、「伊勢湾海上交通センター一般公開実施中！」をPRするプラカード誘導、海上保安庁業務を紹介するパネル展示、海に関するクイズ&シールラリー及び伊



写真4 プラカードによる誘導
道の駅「クリスタルポルト」



写真5 業務紹介パネル
道の駅「クリスタルポルト」

良湖岬灯台スタンプ台を設置しました。

道の駅は、多くの来場者がステイジイベントやキッチンカー・グルメを楽しんでいるお祭会場のため声掛け誘導は難しく、見て分かるプラカード誘導は非常に効果的だったと思います。プラカードを持って歩いていると、チラ見する方も居れば、ジックリ見る方も居ます。後者に対しては興味を持って頂いていると思いき、積極的に話し掛けセンターの見学を促しました。「どこにありますか？」と聞かれることが多く、「岬

の中腹に在り、徒歩約15分と告げると酷暑にも関わらず「行ってみます！」と快い返答も多く意外でした。

また、より興味を示して頂くため、「絶景の伊勢湾を一望できる屋上が有り過去に訪れた方の中には感動して涙を流した方もいます。」とか、子供連れの方には「海上保安官の制服を着て記念撮影できるので思い出になると思います。」などと伝えて一人でも多くの人に訪問してもらおうよう促しました。

午前中に一般公開を紹介した方々がセンターで配布しているグッズを手にしたので感想を聞いたところ、「屋上の景色が最高だったが快晴の時に見てみたい。」「望遠鏡で鳥や船が見られて面白かった。」「管制室が面白かった。」などの感想を聞くことができて感無量でした。

○センター玄関前（ウエルカムコーナー、クイズ・シールラリー担当）

道の駅から当センターまでの道のりは徒歩1キロメートル程度である事や炎天下の可能性もある事から、ウエルカムコーナーに予めキンキンに冷えたペットボトルの飲料水とクイズ&シールラリー用のカードを用意し見学者を迎えま

した。

センターに到着した見学者は、汗だくだったため、冷たい飲料水は大変喜ばれました。若手職員の発言により急遽ペットボトル飲料水を準備しましたが、この時期の一般公開には必需品だったと思います。

また、クイズ&シールラリーを行いました。実施に至った理由は「フェスなので子供達を楽しませたい。」「道の駅から当センターに人流を作るための仕掛けが欲しい。」という思いからでした。クイズ&シールラ



写真6 一般公開横断幕掲示



写真7 ウエルカムコーナー

リー達成者には記念品を贈呈という発想で取り掛かりました。

クイズは海に関する内容で統一し、答えと解説に興味を湧く様に工夫しつつ若手職員により6問を作成しました。クイズ作成には苦心しましたが、世界最大のコンテナ船が一度に運べるコンテナ数、海の上を走る船で一番早い船の時速、日本で一番深い場所、海賊が好んで揚げた旗の名前など、真面目なものからアニメ的なクイズまで多様なものになりました。

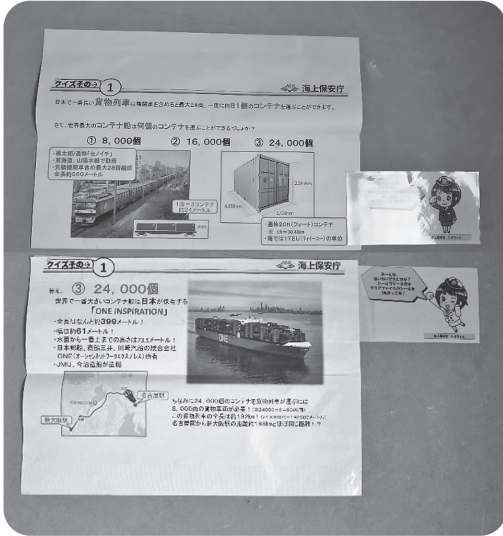


写真8 クイズ（コンテナ船が一度に運べるコンテナ数）

見学者の反応は思いの外好評で、子供だけでなく家族全員で、カップルで、楽しんでいただきました。来年のフェスタに備え、より一層見学者の皆さんに楽しんでいただけるよう新クイズを作り足す必要性を感じています。

また、職員が持参したシャボン玉の自動吹き出し機（百均で購入）を設置しましたが、低学年のお子様非常に評判が良く機械に釘付けでした。当然、お子様は笑顔。職員も笑顔。父母あきれ顔・困惑顔でした。

○センター2階会議室（灯器展示・ビデオ放映担当）

2階会議室では、説明用パネルにより防波堤灯台や灯浮標の役割を説明するとともに、名古屋海上保安部の協力によりLED灯器を2器（Ⅱ型赤 Ⅲ型緑）借用し同室の一隅に設置し見学してもらいました。見学者からは「今度、港に行ったら注意深く防波堤灯台を見てみます」、「こんなに小さな光が10キロメートル先まで届くことに驚きました。」との感想が聞けました。また、同室内では、海上保安庁PR動画等を放映し、迫力ある映像に見学者からは感嘆の声が漏れていました。



写真9 LED灯器展示



写真10 冷房の効いた会議室でPR動画を視聴する見学者



写真11 運用管制室

当日は非常に暑く、冷房の効いた会議室は「避暑地」としての役割も果たし、見学者は動画観賞や灯器の見学をゆつたりとした気分で楽しむことができたと思います。

○センター3階管制室（管制室見学・制服試着担当）

3階会議室では、管制室にある予備卓を見学者に解

放し、目の前に見える伊良湖水道航路の概要、航路通

航船と運用卓に表示される船舶映像を比較、管制業務等を説明しました。伊勢湾内の港に入る多くの船は必ず目の前の伊良湖水道を通過するので、この海域が重要な海域であることを理解して頂けたと思います。

また、制服の試着をして運用卓に座り写真も撮って頂きました。ご家族共にこぼれ落ちそうな笑顔でとても良かったと思います。

放送は三河地方に限られますが、ケーブルテレビの撮影も行われました。見学者へのインタビュ

による「リアルタイムに全部の船の動きを見ることが出来ていて、それが識別整理されている事が分かった。また、それを丁寧に説明してもらえるのが良かった。」との感想をいただきました。

○まとめ

準備期間が1カ月



写真12 制服試着とケーブルテレビの撮影

弱と短い中、特に若手職員を中心に奮闘し様々な催しを準備することができました。見学者の汗と笑顔がとても印象的な一般公開になりました。見学者数は昨年比109人増の271人でした。一般公開に係る改善内容もちあらはらと感じたので、職員の意見をまとめ来年度は更に楽しい一般公開にしたいと思います。



原稿募集 ～灯台記念日イベント関連～

本年、156周年灯台記念日を迎えました。全国各地で灯台の一般公開等イベントが開催されたことと思います。誌面を通して各地のイベントの様を、会員の皆様へお伝えできればと思いますので、ぜひ、本誌へのご投稿お待ちしております。

原稿送付先：jigyo2@tokokai.org

10年ぶりに屋久島灯台を一般公開

鹿児島海上保安部交通課

鹿児島海上保安部は、8月11日(日)の山の日に屋久島灯台の一般公開を行いました。一般公開は、平成26年以来10年ぶりの開催となりました。

屋久島灯台は、現存する明治期の灯台として日本最南端にあり、日清戦争後の台湾航路整備のために築造された煉瓦造の灯台です。



屋久島西端の永田岬に位置することから、古くから地元の方々に永田灯台として愛され、現在では多くの観光客が訪れる観光スポットにもなっており、令和3年6月24日には国の登録有形文化財に登録されています。

【屋久島灯台要目等】

- 所在地…鹿児島県屋久島町(屋久島永田)
- 構造…白色塔形(煉瓦造)
- 灯台の高さ…19.6メートル(平均水面上から灯台までの高さ…72.5メートル)
- 灯質…単せん白光 毎15秒に1せん光
- 光達距離…22海里(約41キロメートル)
- 初点灯…明治30年1月10日
- 灯器…水銀槽式回転装置
- レンズ…3等大型レンズ(高さ約158センチメートル)

光 源…メタルハライドランプ 250W

今回の一般公開は、海上保安庁の事務所がない離島での開催ということもあり、立ちはだかる大きなホールがいくつもありましたのでご紹介します。

【屋久島町との共催】

灯台を「観光資源として活用してもらうことを促進



3等大型レンズ



登録有形文化財プレート



お子さんを撮影するお父さんとその撮影風景を撮影する屋久島町役場職員

する」ことも開催目的の1つとしていたため、屋久島灯台の所在する屋久島町の協力は必要不可欠というところで、事前に職員が役場へ赴き協力の打診を行ったところ、好感触。幾度か打合せを重ね、共催していただくことができました。屋久島は1993年、白神山地とともに日本ではじめて世界自然遺産に登録され、登山、ダイビング、カヤック体験、ウミガメの産卵などを見ることがができる自然豊かな島ですので、興味のある



一般公開全景（左：航空機から 右：灯台前面から）



内部公開



制服着用



VR体験



海上保安庁航空機飛来



グッズ配布

る方は是非訪れてみてください。

【資機材運搬】

開催に伴い、5月上旬から交通課若手職員を中心に準備を進めてきました。

来訪者200名!!を目標に各種イベントを企画しましたが、離島での開催ということで対応できる人員が限られることから泣く泣く断念した企画もありました。とはいえ、企画したイベン

トの資機材を詰めた段ボール箱は10個を超えました。

鹿児島本土から屋久島へは、飛行機で約35分、高速船で約2時間、フェリーで約4時間かかります。予算と資機材運搬を考えると、官用車に資機材を詰めフェリーを利用する方が一番とも考えましたが、屋久島での準備時間が少なくなるため、移動は高速船、島内はレンタカーを利用することに決定。資機材を詰めた段ボールは事前に屋久島町役場へ郵送し保管していただくことにしました。

また、テントや長机、椅子などは屋久島町に準備していただきました。

【宿泊所の手配、職員移動】

開催日は三連休のど真ん中でもあり、お盆シーズンでした。

職員の中には、前日の準備から開催翌日の片付けまでの2泊3日に対応する職員もあり、宿泊所を早めに手配したものの、1人1部屋の確保はさすがに難しく、4人1部屋で修学旅行状態となりました。

移動手段の高速船もインターネット予約が開始された2か月前直後に確認するも既に満席の文字。これにはさすがに焦りましたが、電話で問い合わせると少し

の空席があると判明し、人数分を何とか確保することができました。

灯台の一般公開は、これまで灯台記念日である11月1日前後に開催してきましたが、今回は8月の開催となりました。来訪者、対応した職員、屋久島町役場職員のため、お茶、氷、塩分タブレットを大量に準備し十分な熱中症対策を行い、気温30度を超える猛暑のなか目標の200名を大幅に超える264名の来訪者があり、大盛況のイベントとなりました。



熱中症対策



写真1 イベント終了後の記念撮影、「能登の人が皆元気になりますように！」

七尾の海から能登半島に元気を送る！
 ～児童による震災復興応援イベント～

七尾海上保安部

令和6年10月2日

ここ能登半島は、元日に発生した地震により甚大な被害を受け、9カ月を経過した今も復旧の途上にあり、復興には未だ程遠い状況となっています。

そのような中、七尾海上保安部では被災したこの地域を少しでも元気づけようと、何か出来ることはないか年度当初から思案していたところ、某職員から過去に東日本大震災の復旧支援のおり、七尾市所在の七尾大田浮標置場から二管区へ灯浮標を送る際、震災復興の応援メッセージを子供たちに書いてもらい送り出したことがあったとの話を聞きました。

置場には、ちようど七尾湾に設置される灯浮標があり、これにメッセージを子供たちに書いてもらい、今度は被災したこの能登の地を元気にしよう！との思いからイベント実施に向け走り出しました。

まずは東日本大震災の時にメッセージを書いてもら

った七尾市立北星ほくせき小学校へ：と意気込みましたが、少子化の影響から現在は廃校となっており、それでは七尾市の教育委員会に話を持ち込んだものの、震災復旧・復興の対応に皆さん忙しいのもあって、けんもほろろの状態でした。

とは言え灯浮標の交換にあわせて実施すべく、市内の高校or中学校の書道部に頼んでみては？はたまた美術部か？と案は浮かぶものの実行性に乏しく、気はあせるものの灯浮標の整備期日が迫る中であって、これまでかとあきらめモードとなつていたところ、七尾市立東湊ひがみ小学校から、七尾湾の入り口にある能登観音埼灯台の見学はできないでしょうか？との話が舞い込みました。

能登観音埼灯台は、能登各地の沿



写真2 能登観音埼灯台敷地が震災により崩落

岸灯台と同じく、今回の震災により甚大な被害を受け、建物はもとより灯台敷地が大きく崩落して見学することは出来ませんが、折角の申し入れを無駄にしたいけない！とダメもとで灯浮標への応援メッセージ記載の件を提案することとなり、交通課長&専門官の強力タッグで交渉を行いました。

同小学校担当教諭には、今回のイベントにかける熱い思いを説明、参加の可否について検討を頂いたところ、数日のうちにイベント参加OKですとあっさり快諾して頂けました。

聞けば廃校になった北星小学校の合併先が今回の東湊小学校であり、さらに現在の東湊小学校の校長先生は北星小学校に在籍していた際、前回行った灯浮標への応援メッセージイベントに携わっていたことが判明、校長先生から「今回のイベント参加は大変貴重な経験となる、積極的に参加するように！」とお達しがあったそうで、何か不思議な縁を感じずにはいられませんでした。

とは言え急遽動き出したイベントに向け、もう出来ないと半ばあきらめモードであったところ、時間が無い、金がない：と準備不足は否めない中であって、本

部整備課のほか地元灯浮標整備業者、燈光会など協力を得つつイベントの成功に向け走り出しました。

一方で同小学校の児童たち（2年生、23名）も描く絵やメッセージの構想？など着々と準備を進め、「児童たちはとても楽しみにしています！」との担当教諭からの期待の声が寄せられました。

そんなイベントを一週間後に控えた矢先、能登半島を記録的な大雨が襲いました。

震災復旧の足音が止まるどころか、震災被害よりもひどい有様に、被害状況調査に訪れた際には「もう踏んだり蹴ったり、神も仏もあるものか…」との声が一様に聞かれました。

そのような中であつて、本イベントを



写真3 豪雨により河川が氾濫（輪島市門前町）

今実施してもいいのだろうかとか葛藤しつつ、東湊小学校へ被害状況やイベントの参加可否について確認を行ったところ、教職員及び児童を含め幸い被害がなかった事、更にはこのような時こそ復興応援をしたい、児童も楽しみに待っていますとの声が寄せられたことから、イベントを実施する運びとなりました。

9月30日の実施日当日は、真夏に比べれば幾分か暑さが和らいだものの、小学校児童たちの熱気からか、まだまだ暑い最中での開催となりました。

イベントの実施前には、七尾湾に向かって児童皆で「カントリーロード」を熱唱、その後辻井七尾部長からの温かくも熱い励ましに続き、児童たちによるシュプレヒコール？ならぬ意気込みを各班にて披露、その後4班に分かれて七尾で交換される灯浮標4基、それぞれに応援メッセージなど描いて頂きました。

児童たちは「ふっこうをねがってがんばれのと」や「いつもえがおで」などの復興応援メッセージのほか、未来のにぎやかな海の様子など、わずか1時間の間に、こちらがびっくりするほどたくさんさんの絵を一生懸命描いてくれました。

終了後、記者からの質問に、「能登の人に元気を出

してほしいと心を込めて描いた」、「心を込めて書いた」、能登の人に元気を出してもらいたい」とこちらの胸が熱くなる思いを話してくれました。

今回、描いて頂いたこれら灯浮標は今月を目途に七尾湾に投入されます。

この児童たちのメッセージが復興に向けて頑張っている人の大きな力になるようにと願ってやみません。

現在、能登半島は、元日の震災被害もままならないなかで、記録的な大雨により二重の被害を被る中にあつて、復旧・復興の道は極めて厳しいものと感じざるを得ませんが、わずかでも復旧・復興の一步が踏み出せるよう、七尾海上保安部は今後も様々な機会を通じて支援してゆきます。



写真4 各班の意気込み、応援メッセージ書き込み



写真5 応援メッセージ





前日までの強風等大荒れの天候から一変、雲一つないさわやかな秋晴れとなった10月21日(月)、巡視艇はまゆきに乗船した七尾市立東湊小学校2年生22名は、自分達を書いた震災復興の応援メッセージ入りの灯浮標の交換作業を間近で見学しました。

これは当初、今年度七尾湾で灯浮標の交換を予定している4基の標体に、地元小学生により能登半島復興の応援メッセージを描いてもらおうと企画し実施した後、同小学校から、頑張ってメッセージを描いた児童を海上保安庁の船に乗せてもらうことはできないか?との問合せがあったことが発端です。

これには七尾海上保安部として何としても応えねば!&小学校2年生ながら、遠い先を見越したりクルート活動?をとの思いから、管理課長を筆頭に準備が進められ、どうせやるなら応援メッセージ入りの灯浮

標が実際に設置されるところを見せてあげようとの超前向きな意見があり、これを実現すべく動き出しました。

灯浮標の交換作業は標体の整備(塗装等)、機器の取り付け等順を追って進めていくところですが、何とか10月21日にお願ひ!と本部整備課のほか、被災者でもある地元業者に事情を説明しご理解いただき急ピッチで作業が行われた結果、間に合ったものです。(関係者の皆様、厚く御礼を申し上げます)

後は当日の天候を祈るのみとなりましたが、〇〇課長の日頃の行いの成果か、前日の荒天が嘘のようにイベント当日は雲一つない晴天となり、無事に灯浮標交換工事見学&体験航海ができる運びとなりました。

殆どの児童たちは船に乗るのは初めてで、普段見る

ことのない自分たちが住んでいる街並みや同小学校校舎を海上から目を輝かせながら眺め、また、操舵室のリーダーや電子海図について職員に質問をしている将来が楽しみな児童もいました。

灯浮標交換作業では、児童の到着にあわせ、応援メッセージ入りの灯浮標を投入（業者に感謝！）、クレーンに吊り上げられた灯浮標に、児童たちから歓声が上がると共に投入された灯浮標に手を合わせて能登の復興を願っていました。

この児童の中から、将来、この経験がもとで入庁したという海上保安官が現れることを期待しています。

今回投入された灯浮標は、児童たちの願いをのせ航行船舶に対し安全への道標として、能登の復興を七尾の海から見守り続けることとなります。

能登半島は、震災と豪雨の二重の被害を受ける中であって、復旧・復興等非常に厳しい状況ではあります。が、七尾海上保安部では引き続き息の長い支援活動を展開してゆきます。



写真1 巡視船はまゆき乗組員との記念撮影

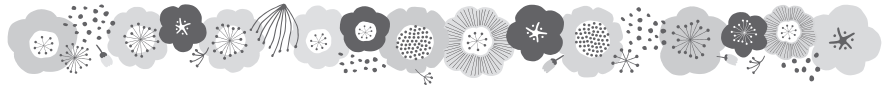


写真2 巡視船はまゆき 体験航海



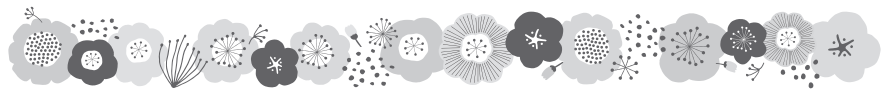
写真3 七尾港内クルージング



写真4.5 灯浮標交換工事見学



写真6.7 応援メッセージ記載の灯浮標に向け黙とう



情報システム課程の校外実習

海上保安学校 航行援助教官室



全員で記念撮影

海上保安学校情報システム課程第32期生（2年生）27名は、令和6年6月20日（木）、舞鶴海上保安部交通課の協力を得て、京都府京丹後市に所在する経ヶ岬灯台で実習を行いました。

経ヶ岬灯台で実施する実習は古くから行われており、灯台横で宿泊しながら行った実習を思い出された諸先輩方も多いのではないのでしょうか。現在は、現場で滞在勤務を要する灯台が無くなり、さらに学生達の宿泊時における生活面の問題等もあり、日帰りで灯台の歴史や保守管理方法等に関する実習を行っています。学生達は、初めて訪れた大型の灯台と巨大な一等レンズに圧倒されながらも、舞鶴保安部職員の説明を聞き漏らすまいと必死に聴き、メモし、時には質問し、自分達が学んだことを確認しながら知識を吸収していました。

卒業まで、残すところ6か月足らずとなり、学生達は現場への不安を感じつつも、一日一日学校生活を大

切に過ぎしながら、現場赴任へ向け少しずつ成長しています。

今回の実習にあたり、業務多忙中にもかかわらず舞鶴海上保安部交通課の皆様にご協力をいただきましたことを感謝申し上げます、学生達の感想を紹介させていただきます。



灯室内の様子



環境整備の様子



電源室の様子

【実習参加学生の感想】

情報システム課程第32期 A



植田 知紗 学生

今回の実習で、経ヶ岬灯台の歴史・機構・レンズの大きさなど、授業で聞いていた装置や知識の再確認を行うことができ、実務においてどのように自分が動くべきなのかをイメージすることができました。また、実際に灯台や機器を目の前になると、学校で椅子に座って聞いているときよりも理解しやすいだけでなく、現場の雰囲気を感じることもできる絶好の機会となりました。

雷や停電が発生した際にも、航路標識の機能を維持し船舶交通の安全を守るために予備電源に切り替わり、航海をしている方の命を守っていることを実感し感動しました。

海上保安庁では、巡視船や航空機を使った海難救助だけでなく、航路標識業務は陸から灯台を守ることで命を守っている仕事であることを知り、とてもやりがいのある仕事だと思いました。学んだことをしっかりと現場で活かせるよう、これか

らの勉強に励みたいと思います。

情報システム課程第32期A 北方 暁朗 学生



恥ずかしながら、灯台は外から眺めたり、上に登って景色を楽しんだり、夜になったら海に光を照らす建物という印象しか持っていませんでした。

しかし今回、経ヶ岬灯台で実習して、灯台がどのようにして無人で稼働しているのか、灯台内の設備に不具合があったとき、どのように復旧されるのかなどを理解することができ、灯台に対する見方が変わったと同時に、灯台についてもっと知りたいと思うようになりました。一方で、灯台を維持管理することがどれだけ大変かという事もわかりました。経ヶ岬灯台は国の重要文化財に登録され、全国でも非常に有名な灯台ですが、交通の便が悪い位置に存在しており、しかも灯台付近の道は非常に細くなっているため、灯台の点検や修繕をするにしても、灯台にたどり着くのが一苦労という場所にあります。経ヶ岬灯台だけでなく、全国多くの灯台は岬の先端等、非常にアクセスしにくい場所にあることを考えると、そのような灯台を維持管理するのに、想像できないほどの苦労があることが

容易に想像できません。それでも灯台は、船舶の安全を確保するために欠かせない施設ですので、私が将来交通課に配属された際には、海の安全を守るという責務を持って、維持管理に携わっていきたいと思います。

情報システム課程第32期A 佐々木 陸人 学生



今回の実習では、灯台の歴史や原理、設備及び保守管理について学びました。一番印象に残っているのは、

今では自動化されている経ヶ岬灯台ですが、昔は灯台守が灯台の機能を維持するために、数時間おきに分銅を巻き上げる作業を行っていたことです。それを怠ると、当然灯台は機能しなくなる。船舶交通の安全に欠かすことができない灯台は、灯台守の多大な努力により今まで運用されてきたと知り、感慨深かったです。

そのような灯台ですが、少しずつ整備できる人が少なくなってきたと耳にしました。今まで海を守ってきた灯台が廃れていくことはとても悲しいことであり、私が航路標識業務に携わったら、灯台の整備を完璧にこなし、灯台の機能と歴史を守っていききたいと思いました。

現場に出るまで、あと半年というところまで迫ってきました。今回の実習では、実際に現場に出て、どのように灯台を保守運用していくかイメージができ、同時にもうすぐ海上保安官として働いていくのだという実感も湧いてきました。残り半年、現場で活躍できる人材になるため、さらなる知識・技能の向上に努めていきます。

〈情報システム課程第32期 A 堂上 壮太 学生〉



今回の経ヶ岬灯台の実習は、現場で行う業務を、身をもって経験する良い機会となりました。今回の実習でわかった自分に足りないもの。それは、業務に関する知識はもちろん、業務に対する心構えだと思いました。経ヶ岬灯台は、想定していたよりも過酷な現場でした。灯台までの山道、真夏でも行う灯台の保守点検、灯台一般公開のための準備、灯台に異常があれば駆けつけなければならないこと等、学校で聞いてはいたものの、実習を通じて「これは大変だ」ということを再認識しました。

どんなに知識があろうと、経験があろうと、過酷な現場で業務を遂行する心構えが必要であると感ずるこ

とができ、今回の実習は自分にとって貴重な時間になりました。新たに発見した自分への課題を、現場に向かう日まで、在学中に解決していきます。

〈情報システム課程第32期 A 花岡 きらら 学生〉



今回の経ヶ岬灯台での校外実習において感じたことは、現場で業務を行う上で必要となる専門知識を蓄えることの大切さです。私たちは普段、航路標識や無線機器についての授業、また無線機器等を実際に使った訓練に励んでいます。しかし実際に現場で行っている灯台の保守整備業務に関する知識は漠然としており、普段の授業ではイメージをしにくい部分もありました。そんな中、学校での学習が現場の業務においてどのように用いられているのかを自分の目で確認したことで、より理解を深めることができました。しかし一方、実習中に初めて知ったことや、疑問に思ったことなども多くありました。

現場では多くの機器や装置があり、それに伴って多くの知識が必要になります。そのため、残りの学校での授業や実習で、現場に向けて多くの知識の習得に努めていきます。

恵山岬灯台を活用した初国際ウエディング

函館海上保安部交通課

本年2月に航路標識協力団体に指定されました「恵

山岬灯台活用協議会」は、函館市から移住サポーターを委嘱された北條氏（地域おこし若者グループ「R I S E M A N」代表）が会長を務め、灯台近くの宿泊施設「はこだて恵山ホテル恵風」総支配人の高島氏、函館市榎法華支所長の三原氏、海上保安友の会 道南支部理事の増井氏ほか関係企業も会員として参画し、恵山岬灯台を核とした函館東部エリア活性化の取り組みが行われており、その一つをご紹介します。

7月20日に「はこだて恵山ホテル恵風」の屋外披露宴プランの一環として灯台ウエディングが開催され、灯台での挙式、踊り場に立つ新郎新婦への祝福、ドローン空撮が行われました。このプランに申し込んだカップルは、パキスタン人の新郎フセインソフィアンさんと、パキスタン人の父と日本人の母のハーフである日本人新婦中村彩羅さんのご夫妻で、この地域と結

びつきがありました。

灯台ウエディングは、全国で過去に事例があつたと思いますが、国際カップルの挙式は初ではないかと思えます。

参列者は150人ほどで、8割が北海道外から来られたご夫妻の友人、2割が地元の関係者です。灯台下から参列者により「愛を誓いますか？」が問われ、灯台踊り場からご夫妻が「誓います！」と答えると、参列者により人文字で「LOVE」が描かれました。

ご夫妻は、現在、茨城県古河市と北海道函館市の2拠点生活で、年の半分を函館市で過ごしており、恵山地域の土地を購入し、地元林業の支援を受け原木生産と椎茸栽培販売を始めており、将来的には羊の畜産を計画しているとのこと。地域に根差したビジネスの展開が見込まれています。

（掲載にあたってはご夫妻から快諾が得られております。）



愛を誓う新郎と新婦



祝福する参列者



人文字で描かれたLOVE

画像：トモソラ空撮 提供

「恵山岬灯台活用協議会」は、協
力団体に指定され
る以前から灯台敷
地での「フォトコ
ンテスト」「サウ
ナ」「チェアリン
グ」などのイベン
トを行った実績が
ありますが、指定
後においても上記
「ウエディング」
や「菓子まき」な
どユニークな活動
を本格化してお
り、今後の活躍が
期待されていると
ころ、函館海上保
安部もバックアッ
プしてまいりたい
と思います。



釜石保安部だより

釜石海上保安部

海上保安官の蜂退治

「スズメバチには敵わない」

9月8日（日）、大船渡市の一般市民から釜石海上保安部に、「大船渡港指向灯の壁に蜂の巣があつて、日毎に巣が大きくなり、危険を感じています、除去をお願いします。現在のところ被害はありません。」と通報がありました。

翌日、棒、手袋、ヘルメット、厚手の服やビニール袋、殺虫スプレー等で重装備のうえ、職員による巣の除去も含めて、調査を行いました。

しかし、調査したところ、建物の屋根の庇にスズメバチの直径約50センチメートルの巨大な巣、職員が建物に近づくと、多数のスズメバチが飛来、警戒します、危険、無理、早々に除去を諦め、退散しました。

大船渡市に相談、スズメバチの巣の除去業者を教え

ていただき、9月14日、業者により無事にスズメバチの巨大な巣を除去することができました。

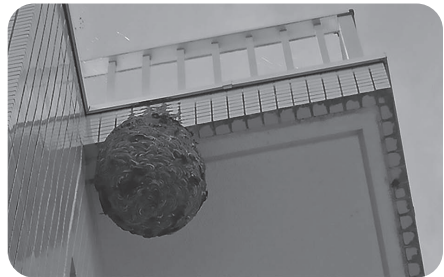
美しい青い海と空と緑の大地、自然豊かな三陸ですが、釜石海上保安部は、猛暑、蜂や熊出没など自然の脅威に留意しながら、海の安全安心の確保に努めます。



大船渡港指向灯



人的被害なく無事に駆除



スズメバチの巨大な巣

大船渡湾で航行船舶の徐行を呼びかけ

～漁業者の海中転落や

養殖施設の破損を防止～

8月23日、岩手県大船渡市で大船渡湾内航行船舶の徐行を呼びかけました。

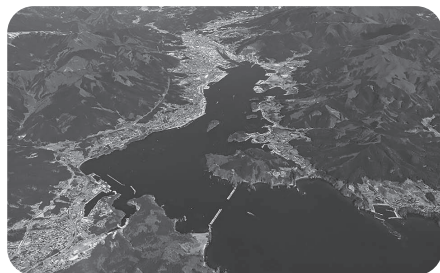
大船渡湾（重要港湾 大船渡港）は、リアス式海岸に囲まれた、奥深い波静かな天然の良港で、古くから物流や交流の要衝として栄え、ワカメやカキの養殖漁業も盛んです。

しかし、国内外の大小多くの船舶が行き交うため、航走波による養殖漁業施設の破損や漁業従事者の海中転落が危惧されています。

特に、サンマ漁業の水揚げで入出港船が増加するこの時期に、岩手県大船渡市水産課と大船渡市漁業協同組合及び釜石海上保安部は、共同で大船渡市内の船舶会社、漁業無線局及び新聞社を訪問、航行船舶の徐行と漁業従事者の安全確保や養殖漁業施設の破損防止を呼びかけました。

釜石海上保安部は、美しい青い空と海と緑の大地、

海洋資源が豊かなこの三陸で地域の皆様に寄り添い、海の安全安心の確保に努めます。



天然の良港 大船渡湾（重要港湾 大船渡港）



呼びかけの様子

大船渡湾内、航跡波注意

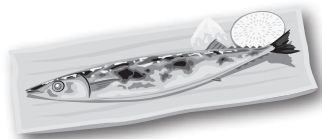
漁業従事者、海中転落事故の恐れ

徐行

SLOW DOWN

航跡波により湾内での漁船転覆や漁業者の海中転落が危惧されています
急ぐ気持ちを思いやりに変えて、出入港時には徐行をお願いします

大船渡市・大船渡市漁業協同組合・釜石海上保安部





志摩の「のぼれる灯台」を訪ねて



一般会員 三嶋 咲栄



1 憧れの灯台巡り女子旅決行

私は、燈光会員となり早5年目となります。毎年同会から送っていただく灯台カレンダーの景色がとっても素敵で、カレンダーに登場する灯台に行ってみようという衝動に駆られ、夏休みを利用して三重県志摩市にある安乗埼灯台と大王埼灯台を訪れることにしました。

私の住んでいる石川県にも有名な灯台があります。一般公開などの特別な時期でしか灯台にはのぼれません。石川県から近くて、いつでも「のぼれる灯台」が志摩市に2か所もあることから、令和6年8月23日から24日に志摩の灯台を訪れることとしました。

灯台カレンダーには、安乗埼灯台と大王埼灯台は毎年常連で掲載されていて、国の登録有形文化財に登録されるなど両灯台とも歴史があつて、西洋風の美しい灯台ですので、以前から一度は訪れてみたい灯台でした。

6月下旬に職場での夏休み調整があり、希望時期とは少し違ったのですが、8月下旬に夏休み期間が決まり、今年は私の干支年でもありますので、少し気合を入れて遠出することとしました。

私は山登りの趣味があつて、高い所から雄大に広がる景色を見るのが大好きで、今年は灯台にのぼって地球が丸く感じられる広大な海を眺めたいと思い、灯台巡りを決行することになりました。

2 志摩への長い旅

石川県最寄りのIRいしかわ鉄道の駅を朝7時2分の電車に乗り、金沢から北陸新幹線、特急はくたか、近鉄特急を乗り継ぎ、最初の目的地である伊勢市宇治山田駅には12時37分着となり、約6時間近くかかりました。

金沢から東京に行くのに北陸新幹線は便利になりましたが、敦賀まで今年の3月16日に延伸したことで、以前は特急はくたかまで金沢から名古屋まで直通又は米



宇治山田駅



駅1階コンコース

原で東海道新幹線に乗り換え1回で行けましたが、今は敦賀での乗り換えがあり、東海道新幹線を利用すると乗り換え2回となり、乗り換え時間を含むとあまり時間的メリットが感じられませんでした。
敦賀駅では、北陸新幹線に乗っていた人が一斉に降りて、名古屋方面や京都大阪方面への乗り換えとなるので、民族大移動状態で、駅員さんが大勢でものすごい誘導をしていて、これは大変だなと感じました。

私は、名古屋までは何度か行ったことがあるのですが、志摩市まで行くのは、今回が初めてで、名古屋駅で近鉄の乗車券を買うのに自動券売機の操作に自信がなく、インバウンドの方が長打の列をなす券窓口に並んでしまったので、予定の電車に乗れずに20分後発の列車になりましたが、当初から宇治山田駅で下車して、昼食を頂こうと計画していましたので、予定からは25分遅れで到着できました。

宇治山田駅は、今でも皇族や内閣総理大臣が伊勢神宮に参拝される際に利用される駅だそうで、駅舎は平成13年に国の登録有形文化財に登録され、伊勢神宮外宮の玄関口として昭和6年に建造されたそうです。宮殿のような豪華な装飾がなされた駅舎とのことから一度は見てみたいのと本場の伊勢うどんを食べたいこともあり、ここで下車しました。

駅1階コンコースの柱には、なんと菅島灯台の写真パネルが飾られていて、これから三重の灯台巡りに行く私を歓迎してくれているようで気

持ちが高まりました。

昼食は13時過ぎになってしまったので、お店は比較的空いていて、待ち時間なしでテーブルに着くことができました。入口の順番待ち表に名前がたくさん書かれていたので人気店であることが伺え、少し遅いお昼で良かったと思っています。伊勢うどんは、エビ天ぶら2つが入ったものを頂きましたが、私のイメージにある伊勢うどんとは全く異なり、長旅で疲れた体には



天ぶら伊勢うどんを頂きました

やさしい味で本当に美味しかったです。江戸時代にお伊勢参りが流行り、伊勢うどんが旅人の疲れを癒す「おもてなし」であったことが納得できました。

3 安乗埼灯台巡礼

安乗埼灯台に着いたのは15時頃で、日本海側から太平洋側に出て、本当に遠くまで来たなあ実感しました。



安乗埼灯台にて

安乗埼灯台については、燈光誌でよく記事や写真が掲載されていましたので、少しの知識があったのですが、灯台入口には映画「喜びも悲しみも幾歳月」のロケ地となった写真と説明書きが貼られていて、改めて有名な灯台であると認識しました。

灯台にのぼると的矢湾が左側に、右側には太平洋が開けていて、日本海では数少ない通航船舶ですが、太平洋側では多くの船舶が行き来していて、灯台の重要性を感じました。

安乗岬園内には志摩市が運営する「安乗埼灯台資料館」があり、初代安乗埼灯台の模型や灯台資料が多く展示されていて、このような灯台専門の資料館を見るのは初めてで、大変興味深く見学させていただきました。

灯台周辺は、安乗岬園地として芝生や遊歩道が整備されていて、園内には灯台カフェ「きんこ芋工房 上田商店」があり、きんこ芋を使った様々なスイーツが販売されていました。クーラーの効いたカフェでアイスコーヒーを飲みながら、海と空のブルーに良く映える灯台をゆっくり眺めることができました。

また、カフェ内にはどこかの灯台で使われていたレンズが置かれていて、明かりも点灯されていました。

お土産にきんこ芋2つを購入し、家に帰ってから頂きましたが、とても甘くて人気があるのが分かりました。このスイーツは観光雑誌で取り上げられるなど、かなり有名だそうです。このスイーツ目当てで来られる方も多いようです。

石川県加賀市に加佐岬灯台があり、私は5年前に、この灯台を訪れましたが、近くに加佐ノ岬倶楽部という大きなカフェで有名なカフェがあり、この時はランチを頂いたのですが、灯台近くにこのようなお店があると、灯台を訪れる付加価値が高まり楽しみも増えると思いました。

4 大王埼灯台巡礼

安乗埼灯台から大王埼灯台までは約13キロメートルあり、1日で2か所に行きたかったのですが、灯台は午後4時までしかのぼれないので、大王埼灯台へは翌日の朝一で行くこととしました。

灯台入口で迎えてくれたのは、猫ちゃん2匹でとても人懐っこく、何か食べるものを持っていれば良かったのですが、おとなしくなでさせてくれました。

大王埼灯台は、昭和2年10月5日（1927年）に建設された現役の灯台で扇形のお洒落な付属舎バルコ

ニーがあり、入口には古典風の凝ったデザインが施されている灯台です。岬の高台に設置されていて、かつては九鬼水軍の居城であった場所とのことで、岬の高台に凜とした立ち姿が美しく、ここも空と海のブルーに白い灯台がよく映えるロマンチックな所だなあと感じました。このロマンチック感から「恋する灯台」に選ばれていることも納得できました。

灯台近くには、小さな広場と綺麗なトイレが整備さ



絵描きさん美しく描いてくれるかな？

れていて、「大王埼灯台ミュージアム」があり、昔使用されていた灯台のレンズが展示されていて、スイッチを押すとレンズが回転し、かつての灯台の灯を見ることができました。

志摩市のこれら2つの灯台には、お土産屋さんが隣接し、写真スポットや絵になる場所が整備されていて、良く観光化されているなあと感じました。

5 番外編

今回志摩市で宿泊した賢島ホテルベイガーデンは、当初予約は洋室シングル16平方メートルのビジネスホテルタイプの部屋でしたが、宿泊の1週間前にホテルから電話があり、10畳の和室でトイレ浴室がセパレートの部屋を追加料金なしで、変更できますと連絡がありました。私は、特に洋室、和室にこだわっていませんでしたので、お言葉に甘えて部屋をクレードアップしていただきました。同ホテルには、17時頃に到着し、ホテル到着後、周辺を少し散策したのですが、賢島駅からは徒歩3分の距離で便利なのですが、駅のコンビニ入口にはなんと18時に閉まる」と書かれていましたので、賢島から志摩市で最も繁華街のある鵜方とは少しの距離ですが、随分違うなあと感じました。

当初予約の部屋は低層階でしたが、5階建の4階の部屋への変更でしたので、部屋からは英虞湾の景色が見晴らし良く眺めることができました。

何うところによると、ホテルの料理長の体調が悪く、最近は食事付きの宿泊は休止しているとのこと、事前に食事の心配もしていただきましたが、ふかふかの布団で広い部屋に変更し



賢島ホテルバイガーデン



和室10畳の部屋に変更



メニューから「海の幸（松）」

ていただけたことは、本当にラッキーでした。両親に志摩では5,000円以下のホテルに泊まると言っていましたので、少し変な顔をされましたが、コスパ最高のホテルでした。今回の「のぼれる灯台」女子旅においては、志摩市での食事も楽しみにして来ましたが、私が志摩市で夕食をいただいた所は、鵜方の日本料理店で、海の幸（松）をいただきました。新鮮なお造り、ささえのつぼ焼き、

伊勢海老サラダ、鯛とブリの煮つけ、天婦羅があり、シメに鯛茶漬を美味しく頂きました。

当初の予約ではカウンター席とのことでしたが、当日、個室に変更できますとのこと、個室に変更していただき、ここでもラッキーな事が続きましたので、今年干支年の私、何か持つてるなあと感じました。

大王埼灯台周辺を散策したあと、鶴方から松阪に出ました。三重県は鰻の店が多いとのこと、松阪の鰻



松阪で「ひつまぶし」を頂きました

屋さん11時に入りました。お店の開店1番で入りましたので、まだ空いていて、「ひつまぶし」をゆっくり美味しく頂くことができました。

松阪から名古屋屋に出て、「名古屋うまいもん通り」に「ひつまぶし」ののぼりがありました。長打の列ができていて、すでに「ひつまぶし」を頂いていたことから少し優越感を感じたのと、赤福を松阪で2個買ったのですが、名古屋では松阪より1個100円高く、ここでも何かついているなど感じました。

実は私は、8月中旬にコロナに感染してしまい、しばらく部屋に閉じこもりの生活をしていて、わずかばかりの運の悪さをちよっぴり恨んでいたところですので、今回の灯台巡りは思いがけない幸運が続き、来て本当に良かったと思っています。

今回の旅行を通し、灯台の凜とした立ち姿、船の安全のため海を照らし続ける姿を見ると、何か日常生活の姿勢が正され、歩むべき道しるべが示されているような気がしています。灯台ファンとしても、これからも多くの灯台を訪れてみたいと思っていますし、この旅が志摩の灯台を訪れる方の参考になれば幸いです。

航路標識測定船つしまに関するいくつかの疑問



セナーアンドバーンス株式会社（普通会员） 五十嵐 耕

1 はじめに

今年5月に、日本航海学会で講演を行う機会をいただきました。演題は「船内情報処理システムの歴史は、航路標識測定船から始まった」です〔参考文献1〕。

演題に含まれる「航路標識測定船」は、海上保安庁航路標識測定船つしま（1977年～2012年）のことです。つしまは知っていても、「船内情報処理システム」のほうは、なじみのない読者も多いかもしれません。

船内情報処理システムとは、船艇の観測・航海装置等から収集したデー

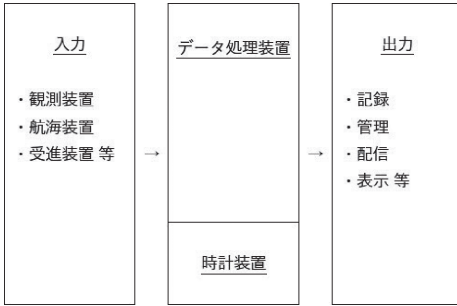


図1 船内情報処理システム概念図

タの記録・管理・配信・表示等を実行する仕組みをいいます（図1）。

講演では、つしまに搭載された電波標識評価システム装置が、日本における船内情報処理システムの第一号であると紹介しました。

2 航路標識測定船つしま

1970年代半ば、海上保安庁は、オメガ、デッカ、ロランA等の電波標識を運用していました。

これら電波標識の精度維持に必要な海上測定を行う航路標識測定船つしまが、1977年に就役しました。つしまは、電波標識の受信装置として、海上保安庁が運用するもののほかに、NNSCおよびロランCの受信装置を搭載していました〔参考文献2〕。

つしまでは、時計装置（原子時計）からデータ処理装置（コンピュータ）を通じて複数の受信データに標準時刻を付与します。正確なタイミングに紐づけられ



図2 つしまパンフレット

たデータを船位計算プログラムで処理し、各電波標識による船位を即時に算出・比較することが可能になりました。

3 船内情報処理システムの発展

つしま以前、船舶における観測業務では、搭載した観測装置はそれぞれが単独で動作していました。そのため、複数データの突合せのためには航海終了後の解析作業が必要でした。

しかし、船内情報処理システムの導入により、即時にデータの確認・整理ができるようになりました。これは画期的なことでした。

つしまに続く船内情報処理システムの導入は、19

81年の海上保安庁測量船昭洋への長距離測位装置の搭載でした。ロランCとNNSによる複合測位ができるようになりました。

さらに、東京大学学術研究船淡青丸（1982年就役）のハイブリッド航法装置や、海洋科学技術センター支援母船よこすか（1987年就役）の高精度航法装置の整備を経て、船内情報処理システムは発展し、現在では多数の船舶に搭載されています。

つしま、昭洋、淡青丸、よこすかの船内情報処理システム整備を手掛けたのはセナー株式会社（1966年〜2005年）でした。その技術力を引き継いだ当社セナーアンドバーンス株式会社（2005年〜）は、現在も観測船や練習船などの船内情報処理システム整備に携わっています。[参考文献3]

4 いくつかの疑問（教えてほしいこと）

前節までの内容が、5月の講演の骨子です。

観測船や練習船における船内情報処理システムの重要性は関係者に認識されているものの、総括的に論じられたケースが少ないからか、講演はおおむね好評を得ました。この講演をもとに、拡充した投稿の依頼をいただいているところです。

そこで、駆け足となつてしまつた部分を補強すべく、資料をさらに探求し、関係者へのヒアリングをすすめていきます。

その過程で、つしまに關するいくつかの疑問が湧いてきました。半世紀近く昔のことであり、なかなか調べきれないでいます。

【疑問1】

つしまは、日本で初めてコンピュータを搭載した船だと聞いたおぼろげな記憶があります。しかし、相当数の文献を漁りましたが、そのことを明記したものは見当たりませんでした。

そのような説の根拠を知っている方がいらつしやいましたら、教えてください。

個人的には、つしまが船内情報処理システムを搭載した第一号であることが、どこかで誤つて伝わつたのではないかと推察しています。

ちなみに、つしまは「世界唯一の航路標識測定船」と呼ばれる場合がありますが、これは間違いです。韓国にも航路標識測定船ハンビット（2000年就役）があります。つしまとは、2004年から2008年まで、ロランCなどの日韓航路標識共同測定に関する打合せ会議で交流していました。

【疑問2】

船内情報処理システムにおけるデータ処理装置（コンピュータ）は、複数データ（測位、測深、観測値等）に対して標準時刻を付与し、正確なタイムミングに紐づけられた複数データを解析処理します。

このようにコンピュータをとおうという発想はどこから湧いてきたのでしょうか。

言い換えれば、誰が、航路標識測定船にコンピュータを積もうと考えたのでしょうか。海上保安庁でしょうか。整備を担当したセナー株式会社でしょうか（当社に、そのような資料は引き継がれていません）。あるいは、海外などで前例があつたのでしょうか。

【疑問3】

つしまに、高価なコンピュータ（富士通ミニコンU-300）を搭載するにあたり、湿度・塩害対策は行わなかつたのでしょうか。

当時、富士通株式会社でつしまを担当されていたK氏によれば、特段の措置をすることはなかつたといえます。特別仕様品は修理保守対応が難しいことから、標準機器を納入したそうです。

また、設置されたデータ処理室も一般的な空調しか整備されていなかったようです。

これらの疑問にかかる情報を、細かいことでも、あるいは関係なさそうなことでも教えていただければ、執筆の励みになります。

ぜひ、燈光会または著者 (igarashik@s-vans.com) あてにご連絡をいただきましたと、よろしく願います。

5 おわりに

航路標識測定船つしまが退役してもう12年がたつそうです。ずいぶん昔のことのようにも思えるし、つい先日のことのような気がします。

海上保安庁灯台部／交通部のフラッグシップつしまの活躍は、〈燈光〉にも多数報告されています。それだけ多くの業績をあげ、多くの関係者がつしまについての思い出をお持ちなのでしょう。

個人的には、1988年2―3月に参加したつしま乗船実習や、2008年の日韓航路標識共同測定に関する打合せ会議に参加したことが印象に残っています。

海上保安庁入庁2年目での乗船実習は、とても刺激的でした。航海中は船酔いがひどく、ほとんど役立たずでしたが、50日間の航海で一言では言い表せない学びを得ることができました(ような気がします)。

それから現在に至るまでの間に、わたしも海上保安庁を定年退官し、今は新しい職場で新しい分野に挑戦しています。多くの地上系電波標識が廃止され、時計装置もGPSで代替され、コンピュータも桁違いの高性能化・低価格化を果たしました。

しかし、つしまから始まった船内情報処理システムの重要性は今も変わりません。そのことを、〈燈光〉読者のみなさまにあらためて理解していただければ幸いです。

参考文献

- 1 五十嵐耕・船内情報処理システムの歴史は、航路標識測定船から始まった・日本航海学会航法システム研究会2024年度春季研究会講演資料、2024年5月
- 2 航路標識測定船「つしま」測定科・「測定船・測定システム」について・燈光第25巻第7・8号 8―19頁、1980年8月
- 3 五十嵐耕、永井勇、山本文博、菊池至・事業所紹介「セナーアンドバーンズ株式会社」・NAVIGATION第234号 29―34頁、2023年4月

灯台を描き続けた画家

徳野秀次氏を偲んで

一般会員 三野 富士雄

日本の灯台一筋に画業を極めて50年。燈光会囑託として30年にわたり、灯台絵画コンテストの審査や灯台



写真1 個展会場にて

記念日の絵画展示、全国各地の灯台周年事業での広報活動にご尽力を賜った大阪の画家 徳野秀次様が、令和6年2月26日76歳で亡くなられました。灯台絵画コンテストの審査を共に担当され、氏と交流のあった灯台写真家の三野富士雄さんから思い出の一文が寄せられました。ここに深く哀悼の意を表し、心よりご冥福をお祈りします。

(事務局)



写真2 第10回 海の祭典にて
(鹿儿島県 1995年)



写真3 秋篠宮殿下ご夫妻をお迎えして



写真5 長嶋名誉監督と歓談する徳野画伯



写真4 横浜三越百貨店 展覧会
オープニングセレモニー (1991年)

私は、アメリカなど海外の灯台をテーマにする写真家として、約20年前に活動を始めた。そんな私にとって尊敬すべき大横綱と言える方が東西にいる。大阪の画家、徳野様と北海道斜里町の写真家、山崎猛様。残念ながらお二人とも亡くなられたが、偉大な先達と生前親しく交流出来た事は、私にとってかけがえの無い宝物です。

お二人とも、前人未到の偉大な記録を樹立されている。徳野様は、灯台をテーマにした大手百貨店での個展開催の回数が日本随一で、その決してブレない生き方と繊細かつ力強い独自の画風で多くのファンを獲得された。読売巨人軍の終身名誉監督 長嶋茂雄様との出逢いと交流のお話はとても心に残っている。以前、大阪のご自宅・アトリエを訪問させて頂いた。リビングに飾られた監督との記念写真を拝見しながら色々な話を伺った。宮崎キャンプ場や多摩川グラウンド、東京ドームなどに度々招かれた事。家族共々とても温かいおもてなしを受けたそう。中でも寒い季節、うどん好きの息子さんの為に、監督がうどんの屋台まで手配されていて、親子とも大喜びしたエピソードには私まで感激させられた。

超一流の心遣いは流石で、徳野様から度々頂くお便



写真6 徳野様 ご自宅のリビングにて



写真7 巨人軍の帽子を手に
思い出を語る

りなどに同じ温かみを感じていました。

私が徳野様の事を初めて知ったのは、地元香川にいた30歳の頃でした。新聞記事で神戸か大阪の百貨店での個展開催を知り、会場まで足を運んだ。男木島灯台100周年の記念イベントで絵画教室や個展を開催された時、都合悪くて訪問出来ずとも残念だった。その後、不思議なご縁で何度かお話させて頂く機会があり、飾らぬお人柄に魅了された。2007年神奈川県江ノ島で開催された第4回灯台フォーラムのゲスト講師をお願いしたところ、快諾頂き遠路自ら運転して来られた。会場に絵画も何点か飾って頂き、参加者の皆さんが感激されていた事が懐かしく思い出されます。講演で『将来、灯台の近くに灯台絵画を飾る美術館を創りたい』との夢も語られていました。

実は、私も海外の灯台をテーマにしたギャラリー&ライブラリーを創りたいという願いを持っている。数年前、香川県小豆島の空き家バンクで、旧伊豆大島灯台に雰囲気良く似た二階建ての洋館を見つけ移住したのも、その為だった。残念ながら窓の多い洋館は、小豆島特有の冬の底冷えが一段と厳しく、体調を崩したので早々に引き払いました…。



写真9 波の描写に圧倒された



写真8 アトリエにて絵画を描く徳野画伯



写真10 日本各地の灯台を津々浦々 取材された資料がギッシリ

生前、徳野様は『日本国内の灯台を取材した折 各管区の海上保安庁でたいへんお世話になったので、灯台の絵を各管区に寄贈して欲しい、必ず頼む』と何度も念押しされていた旨を奥様から伺いました。どのようには海上保安庁に話したらという相談を奥様から受けた私は、まず燈光会の三宅専務理事に話をお伝えし、ご意見を伺いました。すると、千葉の犬吠埼灯台の灯台資料展示館のリニューアルを今年度実施し、中2階にギャラリースペースを設ける。今後、子供達の灯台

アメリカには、灯台のベルタワー（霧笛信号所的な建物）をアトリエにしている有名な画家がいる。私は、作家や画家の記念館を訪れるのが好きで、徳野様のアトリエも以前訪問させて頂いた。ポートでの灯台取材にご一緒して、帰りに釣り上げたカサゴを、奥様の手料理でご馳走になった。（あの味噌汁は絶品でした！）沢山釣った魚を知り合いの方々在宅急便で送る手配もされながら、いつの間にお料理を？と手際の良さにビックリ。個展の際着用するタキシードも奥様が百貨店で生地を購入し仕立てられるそうで、一流の画家を陰で支える奥様は、まるで灯台のような存在だと感心させられました。

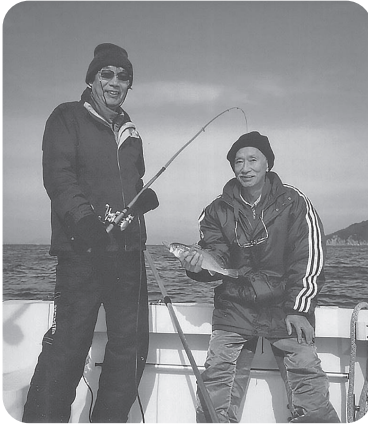


写真12 釣りも名人級！
友人であるお医者さんのボートにて

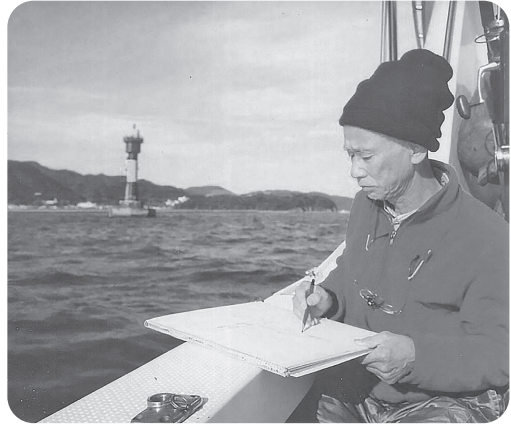


写真11 灯台をスケッチされる表情は、
真剣そのもの

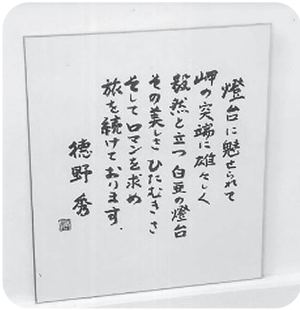


写真14 色紙 個展会場にて

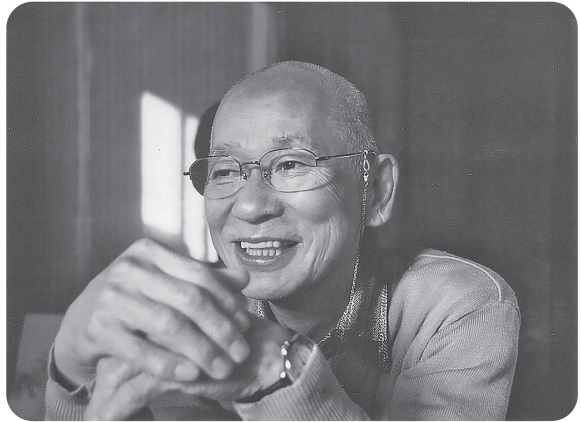


写真13 灯台を一途に愛された徳野画伯

絵画コンテスト入賞作品を
展示する予定なので、そこ
で絵を飾れば、一般の方にも
観ていただけるのでは？
とたいへん有難い情報・ア
イデアを頂き奥様にお伝え
しました。
今年11月27日から12月3
日まで大阪の阪急梅田本店
美術画廊で、徳野画伯の遺
作展が開催されます。その
後、寄贈する絵画を選んで
準備させて頂ければたいへ
ん有難いとの事でした。灯
台のすぐ近くで徳野先生の
絵画を沢山観ることが出来
るとは、何と贅沢で素晴らしい
事！生前の夢に一歩近
づく来年の絵画展示を、今
から楽しみにしています。

海を照らす灯台のなかまたち

燈光会事務局



投稿数が乏しくなってきたっており、このまま受け身では発刊できない！と危機感をいただき、海上保安庁のSNSや各保安部等のホームページでイベントなどの情報をみつけては、丁寧に原稿依頼をさせていただいています。

そして、宇和島海上保安部のホームページを拝見した際に、管内の灯台を連載で紹介しているのをみつけ、ぜひ、燈光誌上でも航路標識の周知広報をさせていただきたいと同保安部へ転載依頼をお願いしたところ、筆者の宇都宮様からご承諾いただき、この度掲載の運びとなりました。ご対応いただきました宇和島海上保安部交通課、そして快諾いただきました宇都宮様に、この場を借りて御礼申し上げます。

「海を照らす灯台のなかまたち」

（はじめに）

今回、新たな企画として、宇和島海上保安部管内に所在する航路標識について紹介することとなり、その第一弾として、西予市在住の元郵便局員「宇都宮さん」が、「日本郵政グループ労働組合南予支部退職者の会南予北分会」の情報誌「大八車」に令和元年11月から令和3年10月まで掲載された投稿文「海を照らす灯台のなかまたち」を少し編集し、投稿者ご本人の了承を得て、皆さんに紹介させて頂くこ

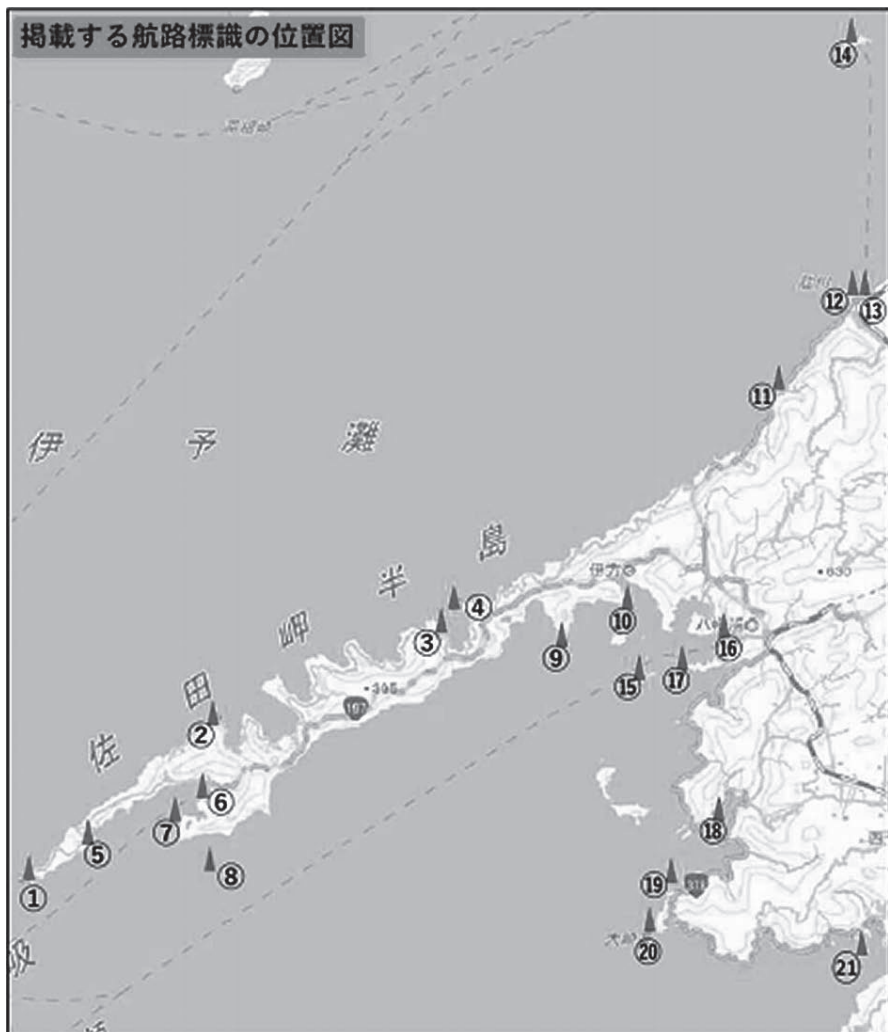


佐田岬灯台・佐田岬黄金簾照射灯

となりました。

この投稿文については、投稿者が様々な文献をもとに、灯台のことでだけでなく、その歴史的背景や灯台等が存在する土地の謂れなどが記載されており、我々職員でも知らなかった内容が含まれていることから、皆さんにも興味を持って読んで頂けるものと思います。

なお、この投稿文に記載されている航路標識が所在する場所や経路については、危険な場所もあることから、訪れる際は、事前に宇和島海上保安部交通課（TEL0895-22



（1933）にて確認するようお願いいたします。

最後に、今回の企画に快く協力して頂いた「宇都宮さん」に対し、重ねてお礼申し上げます。（編集者より）

これから紹介していく航路標識については、以下のとおりです。

- ① 佐田岬灯台
- ② 見舞埼灯台
- ③ 三机須賀防波堤灯台
- ④ 襖鼻灯台
- ⑤ 佐田岬港第一防波堤灯台
- ⑥ 伊予三崎港三崎港第一防波堤灯台
- ⑦ 伊予三崎港井野浦第一防波堤灯台
- ⑧ 庄司太郎碇灯浮標
- ⑨ 女子鼻灯台
- ⑩ 室ノ鼻灯台
- ⑪ 櫛生港西一文字防波堤北灯台
- ⑫ 長浜港北防波堤灯台
- ⑬ 長浜港東防波堤灯台
- ⑭ 伊予青島灯台
- ⑮ 佐島灯台
- ⑯ 八幡浜長早防波堤南灯台

⑰ ゼク岩灯標

⑱ 二及碁石消波堤灯台

⑲ 三瓶高島灯台

⑳ 大崎鼻灯台、伊予水越島灯台

注「⑬長浜港東防波堤灯台」については、2020年に廃止しています。

『それでは、「灯台のなかまたち」について、紹介しますので、お楽しみください。』

海を照らす灯台のなかまたち(1)



海上保安庁では、我が国初の洋式灯台である「観音埼灯台（神奈川県横須賀市）」が、1868年（明治元年）11月1日に起工されてから150周年の節目の年である平成30年11月1日の灯台記念日に「灯台150周年記念式典」が挙行され、記念誌「海を照らして150年」も発行されています。平成30年9月には「灯台150周年記念」の特殊切手も発行されました。灯台の始まりは、岬や島の上に石などで塔を建てて焚火や煙を上げること、船舶の指標としたことからだと言われています。



150th
LIGHTHOUSE
ANNIVERSARY

＜観音埼灯台＞



灯台カード



特殊切手「灯台 150 周年」

皆さんは灯台というと、どのような形をイメージされますか。丸い円筒形、長四角形などを想像されると思いますが、近年、灯台を整備するに当たって、地方公共団体等から、地域の歴史伝・伝統・文化の特色を捉えたシンボルの付与やモニユメント化して欲しいとの要望に応え、海上保安庁では、地域の環境との調和及び港湾・漁港整備との調和を図ることが、良好な景観形成の一助となると考え、地方公共団体が整備した展望台やデザイン化施設等に、海上保安庁が灯台機能を付加したものが出来ていきます。



鷗島灯台

<主なデザイン灯台>



青森港北防波堤西灯台



大磯港西防波堤灯台



淡輪港西防波堤灯台



御手洗港防波堤灯台



女木港鬼ヶ島防波堤灯台



<角島灯台>

今、若い女性に灯台も人気があるようです。登って観光できる灯台も全国に16基あります。数年前の交流旅行で行った山口県下関市の角島灯台を思い出しました。



<角島灯台>

南予北分会（日本郵政グループ労働組合南予支部退職者の会南予北分会）の海岸沿いの長浜町（現・大洲市）から伊方町佐田岬半島、八幡浜市、明浜町（現・西予市）までの範囲の中でも30基の「灯台のなかまたち」が活躍しています。来月からは、これらの「灯台のなかまたち」を紹介してみたいと思っています。

★「大八車」No.214（令和元年11月10日発行）掲載分

海を照らす灯台のなかまたち(2)

〜佐田岬灯台（さだみさきとうだい）〜

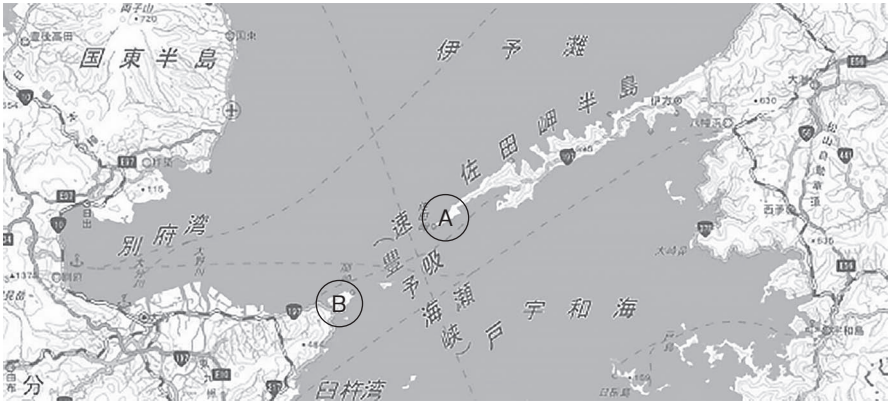
皆さんご承知のように佐田岬半島は俗に「岬13里」と言われ、全長50キロメートル、幅の最大6.2キロメートル、最小0.8キロメートルの日本一細長い半島です。

四国から九州を指差したように突き出した半島の突端に位置する 佐田岬灯台は、南は宇和海、北は瀬戸内海を見下ろす古くから海の 難所として知られ、鳴門海峡に匹敵する速吸瀬戸の厳しい潮流が渦巻き、この地方では磬（はや・はえ）と呼ばれる岩礁（黄金磬）が波間に見え隠れしている。

近代に入り外国船の来航や、国内の海運業が盛んになる中で、各地に灯台が作られました。

豊予海峡は、まず明治34年に対岸の佐賀関に関崎灯台が作られました。しかし豊後水道を行き交う船舶などから、佐田岬にも灯台を建設することが熱望され、大正6年5月に起工、関崎灯台で使われていたレンズ、灯器類一式を同灯台から移転し、コンクリート造りで、大正7年4月1日、佐田岬灯台の灯がともったのです。

平成30年で点灯から100周年となりました。大分



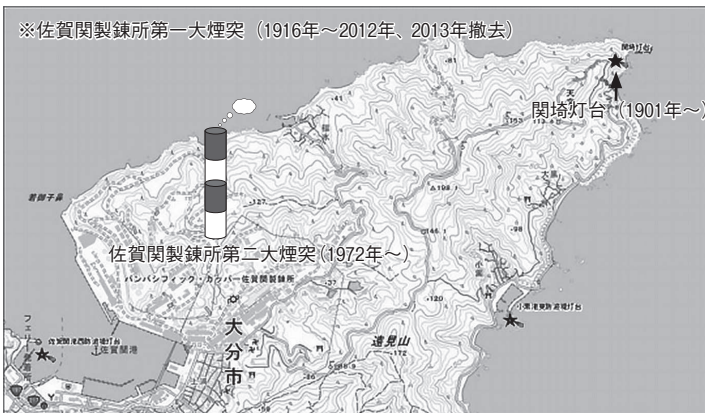
<速吸瀬戸周辺図>



佐田岬灯台周辺の画像



A 佐田岬周辺図



B 関埼周辺図

県佐賀関の2000メートルの大煙突までは、わずか14キロメートルで、手に取るように見えています。



速吸瀬戸周辺の画像

灯台の真下には豊予砲台跡の洞窟が残っており、この工事には、地元の住民も従事したと言われています。戦時中は要塞地帯として、灯台の周辺は一般の立ち入りが禁じられていましたが、今では伊方町の観光のシンボルとして親しまれています。

また、日本の灯台の50選にも選ばれており、室戸岬灯台、足摺岬灯台と並んで四国でも代表的な灯台です。平成29年6月28日には国の登録有形文化財に指定さ

れました。

佐田岬の南沖合650メートル付近にある岩礁（黄金塔）は潮流が速く、座礁が絶えないことから、昭和25年に灯柱が建てられましたが、保守作業が大変危険を伴うものであったため、昭和51年に佐田岬灯台から岩礁を照射する方式に変更され、現在、佐田岬黄金塔照射灯として灯台の仲間活躍しています。

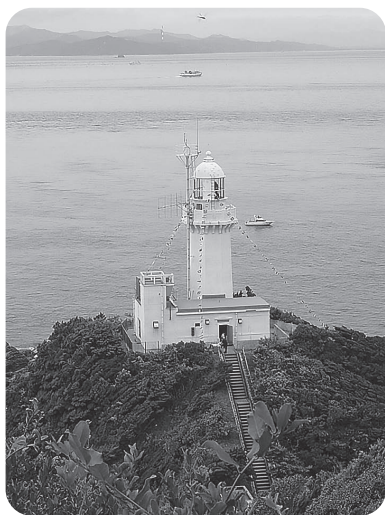
○佐田岬灯台要項

所在地	塗色・構造	灯質	光達距離	高さ
愛媛県西宇和郡伊方町正野字大島	白色、塔形（コンクリート造り）	群せん白光 毎20秒に3閃光	18.5海里（約35キロメートル） 地上から構造物の頂部まで	平均水面上から灯火まで 18.0メートル
				地上から灯火まで 46.0メートル 15.10メートル

★「大八車」No.215（令和元年12月10日発行）掲載分



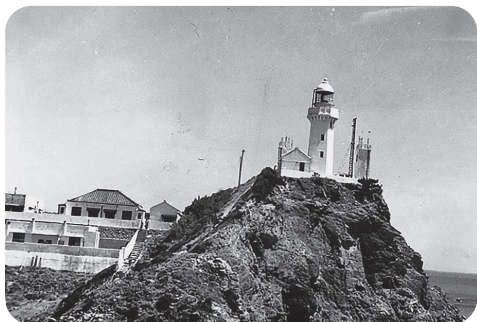
<佐田岬灯台・佐田岬黄金谿照射灯
の画像集>



佐田岬黄金谿照射灯



照射灯



在りし日の佐田岬灯台

海を照らす灯台のなかまたち(3)

〜見舞埼灯台(みまいさきとうだい)〜

見舞埼灯台は小型の沿岸灯台です。

県道のすぐ脇に建っているのですが、到達は困難ではなさそうですが、宇和島海上保安部では、「灯台へ陸から行って写真を撮ったりするのは、道も狭く、険しいところもあるので、無理ではないでしょうか」ということで、今回の見舞埼灯台についても、伊方町二名津



在住の阿部さんに色々お聞きしました。

灯台へは、国道197号線より県道255号線を二名津から泊の港まで約2キロメートル、さらに灯台まで約1.5キロメートル程度の距離のようですが、なかなかどうしてクネクネ道となり、岬先端付近の道路脇に灯台は建っています。

灯台の周りには釣り人の車だらけ、駐車場化し



見舞埼周辺図



ています。

釣り人は、灯台から下って磯釣りを楽しまれ、この時季ハマチが上がっているらしい。

県道は舗装されていますが、途中分岐があり国道197号線に戻るのに迷いそうだと教えてくれました。

見舞埼灯台は、デザインがなかなか感じの良い灯台です。

第六管区海上保安本部は、瀬戸内海、宇和海が担任



見舞埼灯台付近画像

水域ですが、そのうち、佐田岬半島の瀬戸内海側は松山海上保安部、宇和海側が宇和島海上保安部の管轄なのだそうで、佐田岬灯台も見舞埼灯台同様に松山海上保安部の範囲だとか。

○見舞埼灯台要項

所在地	愛媛県西宇和郡伊方町見舞埼
塗色・構造	白色、塔形
灯質	等明暗白光 明3秒に暗3秒
光達距離	8海里(約15キロメートル)
高さ	地上から構造物の頂部まで 10.0メートル 平均水面上から灯火まで 73.0メートル
点灯年月日	地上から灯火まで 昭和51年10月15日 9.95メートル

★「大八車」No.217(令和2年2月10日発行)掲載分



「のぼれる灯台」サポーター募集

全国賛助会員〔年会費 3,000円以上〕
全国16ヶ所の「のぼれる灯台」年間パスポート

地域賛助会員〔年会費 1,000円以上〕
「のぼれる灯台」1ヶ所限定年間パスポート

のぼれる灯台受付窓口にて
入会受付中!

のぼれる灯台(野島埼灯台)



「灯台のことなら」
公益社団法人 燈光会

住所：〒105-0003 東京都港区西新橋1-14-9西新橋ビル3F
電話：03-3501-1054



のぼれる灯台 2025



販売価格 **600円 (税込)** (送料・振込手数料 実費)

★会員の方には1部贈呈致します

大浜崎灯台
(広島県尾道市)

△ 燈光会



屋久島灯台 (鹿児島県熊毛郡屋久町)



足摺岬灯台 (高知県土佐清水市)



納沙布岬灯台 (北海道根室市)



鮫角灯台 (青森県八戸市鮫町)



美保関灯台 (鳥取県松江市美保関町)



安乗埼灯台 (三重県志摩市阿児町)



龍飛埼灯台 (青森県東津軽郡外ヶ浜町)



残波岬灯台 (沖縄県中頭郡読谷村)



白州灯台 (福岡県北九州市小倉北区)



姫埼灯台 (新潟県佐渡市)



湘南港灯台 (神奈川県藤沢市)



水ノ子島灯台 (大分県佐伯市)

申込先

公益社団法人 燈光会

〒105-0003 東京都港区西新橋 1丁目14番9号 西新橋ビル 3F
TEL (03) 3501-1054 FAX (03) 3507-0727
Eメール: info@tokokai.org

昭和三十一年十一月二十五日発行(隔月一回五日発行) 三種郵便物認可

「燈光」

十一月号 第六十九卷 第六号